

I-② いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム以外の教育活動）

（香川大学・教育学部）

教育活動名	教員免許更新講習
実施主体	香川大学
受講者・参加者数	30名
<p>【活動内容】</p> <p>講座名 「いじめ問題を考える」</p> <p>テキスト 加野芳正『なぜ、人は平気で「いじめ」をするのか?』を使用</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. いじめはどのように認識され、理解されてきたのかといった視点から、いじめ問題が構築されていったプロセスを考察する</li> <li>2. ネットいじめについて考察する</li> <li>3. 学級集団といじめの関係について考察する</li> <li>4. 教師としていじめにどのように対処するか考察</li> </ol>	

I-② いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム以外の教育活動）

（愛媛大学・教育学部）

教育活動名	免許状更新講習
実施主体	愛媛大学
受講者・参加者数	現職教員 843名（必修領域）
<p><b>【活動内容】</b></p> <p>I. 必修領域「教育の最新事情」中の「B領域 子どもの変容と子ども理解」において、統一テキストを作り、いじめについては特に以下の内容が講じられている（2コマ160分の中の一部として）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現状 <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知件数</li> <li>・認知した学校の割合</li> <li>・「解消した」とする件数の割合</li> </ul> </li> <li>2. 定義</li> <li>3. 対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ予防のための教師の心得（国立教育政策研究所，2010）</li> <li>・いじめに対する支援グループアプローチ</li> </ul> </li> </ol> <p>II. 選択領域として以下の講義（講習）がいじめについて、直接取り上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ケータイ世界の子ども達」（受講者 184名）</li> <li>・「子どもの問題行動とその背景」（受講者 53名）</li> <li>・「対話と理解の心理学」（受講者 92名）</li> </ul>	

I-② いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム以外の教育活動）

（高知大学・教育学部）

教育活動名	教育学部附属教育実践総合センター教育臨床部門研究会（自主ゼミ）
実施主体	教育学部附属教育実践総合センター教育臨床部門（担当：古口高志）
受講者・参加者数	毎年度5～10名程度（※平成16年度より継続実施中）
<p><b>【活動内容】</b></p> <p>◆活動目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内（“学部内”ではない）の心理学専攻学生のうち、臨床心理学やカウンセリングなどに関心のある学生に対して学習・実習機会を提供する。 →臨床心理学やカウンセリングなどを志向する心理学専攻学生は数多い。しかし、臨床心理学やカウンセリングは心理学の中でも応用分野であり、まずは基礎的な心理学をしっかり学ぶことを優先する必要がある。これを踏まえ、必修の卒論ゼミ等ではオーソドックスな実験研究や調査研究を行い、それに加えてさらに臨牀的な勉強も希望する学生のためのオプションとして、この自主ゼミを位置づけている。＝卒論ゼミや授業（単位）とは関係なし</li> <li>・心理学系大学院や公務員心理職を志望する学生に対して学習の場を提供し、正規カリキュラムだけでは不足しがちな心理学の学習機会を補う。</li> <li>・教職志望学生に対して、教育相談等に関する実践力の育成をはかる（<u>いじめ問題への対応も含む</u>）。</li> <li>・異なる学部に所属する心理学専攻学生間の交流を促進する（本学の場合、主に教育学部心理学コースと人文学部心理学コース）。</li> </ul> <p>◆参加学生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（原則として）心理学を専攻する学部生・大学院生等</li> </ul> <p>◆活動内容（「フィールドに赴いての実践活動」と「大学内での研究会活動」の2本柱構成）</p> <p>①高知市内の私立高等学校をフィールドとしたピアサポート活動（隔週1回（半日））</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動前の打合せ（生徒情報の確認や活動内容・方針の検討など）</li> <li>・生徒個人や生徒集団を対象とした相談活動（<u>相談内容にはいじめ問題も含まれる</u>）</li> <li>・カウンセリング的関わりによる遊びや学習支援</li> <li>・遊びや学習支援、授業参加などを通じた行動観察や関係作り</li> <li>・活動記録の作成</li> <li>・活動終了後の振り返り・事例検討（高校の教育相談担当教員および大学側担当教員を交えて）</li> </ul> <p>②研究会活動（隔週1回（90分））</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記のピアサポート活動に関わる情報交換・事例検討（支援方針や支援技法の検討）</li> <li>・臨床心理学やカウンセリングに関する学習（<u>いじめ問題を含む</u>）</li> <li>・カウンセリングや心理療法に関する基礎的技法のトレーニング（<u>いじめ問題への対応も含む</u>）</li> <li>・臨床心理学やカウンセリングに関する内容の論文抄読・論文執筆（<u>いじめ問題を含む</u>）</li> </ul>	

## 【活動内容】

### ◆活動成果

#### ・高校生への支援効果

これまでピアサポートで関わってきた生徒たちの多くに「悩みや混乱の整理」「精神面・行動面の安定」「対人関係スキルの向上」といった効果が認められている。

#### ・参加学生の学習効果

ピアサポート活動や研究会活動を通して、行き当たりばったりの対応や思いつきの支援ではなく、仮説や理論に基づいた支援を意識したり実行したりすることが出来るようになり、教育相談や生徒対応に関する実践力の向上が認められている。また、必修講義だけでは不十分になりがちな心理学の基礎知識の向上も図られている。

#### ・参加学生の進路

自主ゼミ活動で学んだ知識や経験をもとに、これまで「小・中・高等学校教員」のほか、「臨床心理士指定大学院」「教職大学院」「適応指導教室（心理相談員）」「国立病院（重度心身障害児童指導員）」など、専門性を活かした進路に数多く進んでいる。

I-② いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム以外の教育活動）

（高知大学・教育学部）

教育活動名	高知県心の教育センター「ふれんどるーむ CoCo」事業（への学生派遣）
実施主体	教育学部附属教育実践総合センター教育臨床部門（担当：古口高志）
受講者・参加者数	毎年度15名程度（※平成15年度より継続実施中）
<p><b>【活動内容】</b></p> <p>◆参加学生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動への関心・意欲を有する大学生（教育学部生だけでなく他学部生も可）</li> </ul> <p>◆活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県心の教育センターには、様々な理由（<u>いじめ問題を含む</u>）により学校に行きにくい子どもや、その他の心理行動的問題を抱えた子どものための事業として「ふれんどるーむ CoCo」が設置されている。子どもたちが、心の教育センター職員や大学生と一緒に遊んだり様々な活動に取り組んだりすることを通して、健やかに成長することを目指している。</li> <li>・上記活動への参加を希望する学生を学内で募り、「学生ボランティア」として心の教育センターに派遣している。学生たちは、心の教育センター職員による丁寧な指導・助言のもとで活動に携わっている。</li> </ul> <p>◆活動成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の先生方より「当ボランティア活動経験者は、採用後若いうちから生徒指導・教育相談や学級経営などの面で即戦力として活躍している」との報告を受けている。</li> </ul>	

I-② いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム以外の教育活動）

（高知大学・教育学部）

教育活動名	高知県心の教育センター「スマイルふれんど」事業（への学生派遣）
実施主体	教育学部附属教育実践総合センター教育臨床部門（担当：古口高志）
受講者・参加者数	毎年度2名程度（※平成21年度より継続実施中）
<p><b>【活動内容】</b></p> <p>◆参加学生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問形式の個別支援の能力・経験を有する大学生（教育学部生だけでなく他学部生も可）</li> </ul> <p>◆活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県心の教育センターでは、様々な理由（いじめ問題を含む）により家庭にひきこもりがちな子どものための事業として「スマイルふれんど」が実施されている。同事業は、高知県心の教育センターで来所相談を受理したケースのうち、訪問指導が有効と判定されたケースについて、大学生（スマイルふれんど）を家庭に派遣するものである。なお、同派遣は、センター職員が事前に子ども本人の状況や家庭状況を十分に確認した上で行うようにしている。</li> <li>・教育学部附属教育実践総合センター担当教員と高知県心の教育センター職員とで学生の能力・経験を査定し、適任と認められる学生を心の教育センターに推薦・派遣している。</li> </ul> <p>◆活動成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場の先生方より「当活動経験者は、採用後若いうちから生徒指導・教育相談や学級経営などの面で即戦力として活躍している」との報告を受けている。</li> </ul>	